

平成30年度 第3回嘉麻市公民館運営審議会

1. 開催日時 平成31年3月18日（月） 10:00～
2. 開催場所 嘉麻市嘉穂生涯学習センター夢サイトかほ 大研修室
3. 公開又は非公開の別 公開
4. 傍聴人数 0人
5. 出席者

【審議会委員】

<input type="checkbox"/> 正平 辰男	<input type="checkbox"/> 堀口征一郎	<input type="checkbox"/> 大山 征男	<input type="checkbox"/> 吉田 博満	<input type="checkbox"/> 山口 俊徳
<input type="checkbox"/> 大木 秀一	<input type="checkbox"/> 櫛 ひろ子	<input type="checkbox"/> 手島 静恵	<input type="checkbox"/> 森田 信代	<input type="checkbox"/> 春口 勇介

【事務局（教育委員会）】

<input type="checkbox"/> 教育長	木本 寛昭	<input type="checkbox"/> 生涯学習課長	長岡 和広
<input type="checkbox"/> 生涯学習課長補佐	田原 薫	<input type="checkbox"/> 中央公民館係長	山本 賢治
<input type="checkbox"/> 中央公民館係	末永 美津子	<input type="checkbox"/> 中央公民館係	本松 紗季
<input type="checkbox"/> 嘉穂地区公民館長	田中 隆	<input type="checkbox"/> 山田地区公民館長	松岡 一彦
<input type="checkbox"/> 碓井地区公民館長	福田 勇	<input type="checkbox"/> 稲築地区公民館長	宇佐波 吉徳

6. 開会のことば 中央公民館係長 山本 賢治
7. 教育長あいさつ 教育長 木本寛昭
8. 議題

(1) 平成30年度事業総括について

資料により説明

《質疑および応答》

委員：公民館基本計画に基づいて色々変わっていく事に対して、稲築・碓井地区については不安を抱えていると思うが、どれくらいの理解をいただいているのか。

事務局：稲築・碓井地区については、今後も継続して説明をしていく必要があると考えている。自治公民館長が一年で交代する地域もあるため、一から説明していく必要がある。そのことについて、十分に内容を理解していただけるように今後も説明を継続していく必要がある事を、課題として挙げている。

委員：計画を進めるにあたり、5年以上かかると去年言っていたが、それから1年経った。全て理解してもらおうようにするのは、難しいと思う。地域の方からも「現実的に自治公民館の活動が無くなった時が不安」という声を聞いている。山田地区では、行政区で行えることは行政区で行っているが、それが全て無くなるように感じている方もおられる。そのような不安は、多少なりとも解消するように、分館は分館で、行政区は行政区で行事が出来るということを、伝えていかなければならないと思う。そうしないと、建物だけ先に建っても、なかなか先に進まないだろう。全部が上手くはいかないかもしれないが、来年度計画として行っていただければと思う。

事務局：建物を建てることより先に事業を行い、地域の皆さんに参加していただき、公民館事業や分館で行っていることを理解していただいて、進めて行ければと考えている。また、自治公民館長会議等で説明は続けていきたいと思っている。まだ申し込みはあっていないが、行政区ごとに希望があれば、説明に伺いたいと考えている。

(2) 平成31年度事業計画（案）について

資料により説明

《質疑および応答》

委員：事業計画の稲築地区公民館の施設整備事業について、来年度予算がゼロになっており、予算があがっていない。稲築地区公民館は老朽化しており、修理にとでもお金がかかっていると思う。来年度予算がゼロとなっているが、早めに対策のための予算をつけ、それに向けて進めていただければと思う。

事務局：現在の稲築地区公民館の修繕費については、施設管理運営事業の方で予算計上しており、その予算の中で修繕等を行っている状況である。稲築地区公民館の施設整備事業の予算について、稲築地区公民館施設の協議については小中一体校の施設整備協議会の中で進めていく形になるので、現在こちらの方では予算が付いていない状況である。今後、設計・建築と話が進んでいった際には、学校教育課との協議も出てくると思う。それと併せて予算等の計上を、検討していきたいと考えている。

委員：基本計画の中でも、中央公民館は全体の統括をすることとなっており、それに向けて31年度の事業計画案では、地区公民館に講座を分散しており、早く進んでいると思った。それはそれで良いとは思いますが、各地区で事業実施にバラつきが無いようにしていくには、やはり事業計画の中にもあるように、地域の人材の育成がとても大事である。何度も言うが、リーダーを作るような講座は、市全体できっちりやっていく必要があるのではないかと。去年の講座を見ても、そのような内容の講座は、中央公民館では行われていない。主導的に、各地区のリーダーを作っていくような内容の講座を、中央公民館が行うべきではないか。例えば、各分館で今活動されている核になる人たちを繋げるような講座を、中央公民館で市全体を見通してやっていく必要があると思う。教育長のあいさつの中で、「市民にとって住みよい、居心地の良いまちづくり」というとても良い言葉があった。公民館活動の充実というものを、市が本当に考えているというのなら、人が生きていく中で、経済活動が一番大事なことではあるが、心地よく住んでいくということが、やはり人間の関係づくりのなかで大事である。先ほどの人権講座にもあったように関係性というものは、とても大事だと思う。そのような関係性を作るため、公民館活動のリーダー養成や、リーダーとリーダーを繋げる市全体を見通した活動をしていくことは、市の責任ではないかと思っている。ただ講座をするということではなく、中央公民館として今後の嘉麻市を見据えていくことが、公民館活動の中身ではないかと思う。

事務局：人材育成の事については、以前からご意見を頂いており、中央公民館として、来年度は3事業程度人材育成の事業を考えている。地域で活動していただく方については、地区公民館を中心に活動していただきたいので、地区公民館で分館設置に向けた事業を行うことや、ときめき学習に自治公民館長や地域の方を呼び込むなど、地域の方を集めて出来るような事業を、実施していきたいと考えている。

(3) その他

委員：広報活動の方法についてであるが、公民館はもちろん、色んな社会教育施設でも一番怖いのは市民から「知らない。」と言われることである。これを認知度といい、県ではいろんな範囲についての認知度の調査・アンケートがある。その中でも知らないと言われるパーセンテージが上がると、担当部署は何やってるんだということになる。飯塚市の生活体験学校の場合は、旧庄内町が独自に開発した施設であり、合併前の飯塚市民の方は「何か聞いたことがあるが、よくわからないね。」「何をしているところなんだろう。」というような受け取り方が多く、知らせるといことが大事である。先ほど30年度の事業報告にもあったように、中央公民館や山田地区・碓井地区・稲築地区・嘉穂地区と、それぞれの公民館でたくさんの行事があっているが、この中でどの程度一年間に新聞で報道されたのか、あるいはテレビで報道されたのか、それが非常に重要なポイントになってくる。それで飯塚市の生活体験学校では実施する様々な取り組みについて、新聞各社とテレビ各社にFAX等のフォーマットを作成し、連絡している。例えば、飯塚市の通学合宿の中で昨年初めて市役所の防災安全課と提携し、危機管理課にもお越しいただき、子どもに東日本大震災の話などを直接していただいた。それをこのように、新しい取組を行う時にはマスコミに対し取材依頼をしている。嘉麻市の公民館が実施する事業のうち、それぞれ年間3～4つずつ程、各社にお知らせすると、そのうち一つのくらいは報道をしてくれるのではと思う。一番インパクトがあるのは、テレビである。しかし、テレビは簡単には取材に来てはくれないが、新聞は結構取材をしてくれる。新聞の良いところは、後から増刷して配れる所で、テレビは見損なうと、見返すことができない。飯塚市報で市民にお知らせすることもあるのだが、あまり反応がなく、電話も鳴らない。野菜づくりを親子で行う事などを載せて、すぐに反応があるのは公民館の館報である。市報を読んでいる人よりも、飯塚市の場合は公民館が出している機関誌をよく読まれている。私たちが集めたいと思っている人たちは、市報よりも公民館が出す館報をよく読んでいることが電話のかかってくる数と速度で、すぐに分かる。知らせたい事柄によっては、伝え方を変えることもある。25年前の話にはなるが、小郡市は年に何度か小学校が出す学校だよりの裏に、公民館だよりを刷って配っている。そうすることで、子育て中の親や、ほとんど公民館には来ない親が、学校だよりの裏に公民館の事が書いてあるので、それを見て電話を掛けたり、公民館に来たりする。それは、小学校と公民館の間が仲良くなっていないと、簡単にはいかない。見たこともない校長先生にお願いするのは、難しいことである。福岡市の場合は、100校以上ある小学校と公民館が、一学校一公民館であるため、非常に連携が良い。

